

グループ発表(5) 11月27日(日) 13:00~14:50

多文化社会型「居場所づくり尺度」による地域日本語教室の分析と今後の活用

趣旨

本研究チームは、東京外国語大学多言語多文化教育研究センターでの協働実践研究班のメンバーのうち NPO 法人国際活動市民中心のメンバー7人によって、多文化社会における居場所についての研究を継続して行っている。協働実践研究班では、平成 19~20 年度にかけて外国籍市民の地域の中での居場所に関する基礎研究、平成 21~22 年度にかけて、地域日本語教室に焦点をあてて、多文化社会型「居場所づくり尺度」の作成に関する研究を行ってきた。その結果、日本語教室における居場所感（4 因子；役割感、肯定的他者関係、否定的他者関係、被受容感）、日常的な居場所感（3 因子；役割・被受容感、多文化、否定的他者関係）の双方を測定する多文化社会型「居場所づくり尺度」を作成した。

本研究では、その多文化社会型「居場所づくり尺度」を活用して、地域日本語教室における“支援者”や“学習者”の居場所感と、教室の活動特性との関連性を分析することを目的とする。また、尺度の信頼性や妥当性に関する課題などを踏まえながら、今後の活用方法についても検討する。